

研究・調査報告書

報告書番号	担当
10	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
Types of alcoholic beverages and blood lipids in a French population. フランスにおけるアルコール飲料の種類と血中脂質	
執筆者	
Ruidavets JB, Ducimetiere P, Arveiler D, Amouyel P, Bingham A, Wagner A, Cottel D, Perret B, Ferrieres J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Epidemiol Community Health. 2002 Jan;56(1):24-8.	
キーワード	
循環器疾患、虚血性心疾患、アルコールの種類、HDL コレステロール、中性脂肪、社会的経済的状況	
要 旨	
<p>目的：アルコールが HDL コレステロール値を増加することによって、飲酒によって心血管性疾患発症は減少することが分かっている。本研究では、異なる種類のアルコール飲料の摂取と血中の脂質レベルとの関連について調べた。</p> <p>方法：1994-97年にフランスにおいて、男性 1581 名、女性 1535 名を対象に断面調査を行った。思い出し法によって平均的に 1 週間で摂取するアルコール飲料の量と種類について調べた。</p> <p>結果：1 日当たりのアルコール摂取量の中央値は男性で 24 g、女性で 4 g であった。交絡因子による調整を行って解析したところ、男女ともアルコール総摂取量と HDL コレステロール値および中性脂肪値との間に有意に正の相関が認められた。多変量解析を行ったところ、ワインは HDL コレステロール値と正の相関があり、ビールにおいては男性で HDL コレステロール値との間に正の相関がみられるとともに、男女ともに中性脂肪値との間に正の相関が見られた。飲酒パターンを考慮して解析すると、ワイン摂取者は非ワイン摂取者に比べて高い HDL コレステロール値を示した。しかし交絡因子と社会経済的指標による調整を行った後では、その差は有意ではなくなった。</p> <p>結論：フランスのある集団で、アルコール総摂取量は HDL コレステロール値および中性脂肪値と正の相関があることが分かった。アルコールの種類が血中脂質値に及ぼす特異的効果については明確な知見は得られなかった。しかし生活水準の高い群にみられるワイン嗜好性がより好ましい血中脂質バランスと関連していた。</p>	